翔 TOBU

NO. 60

1986年12月

百万石蝶談会

目　　次

：短　　報　　6 ……1
松井正人：下小屋でカラスシジミを採卵 ……2
松井正人：ホシチャバネセセリを採幼（その2） ……2
井村正行：石川県のカミキリムシ科（その5） ……3
松井泰子：ヒロコの日記から ……6
小幡英典：日頃虫を眺めていて思いめぐらす事 ……6
松井正人：宝達山にてアサギマダラ多数を目撃 ……9
菊池雅之：Self introduction ……9
松井正人：ウラナミアカシジミの蛹に透ける玉の正体は？ ……10
松井正人：白山薬師山でベニヒカゲとゴマシジミを目撃 ……10
井村正行：ヤコンオサムシの一採集例について ……10
編集部：会員の動き・しゃばの動き ……11
編集部：例会の記録 ……12

短　　報　　6

ミスジチョウ

1982年6月8日	金沢市湯涌	1ex	金沢大学理学部
1986年11月18日	白峰村白峰	1幼	松井正人

オオミスジ

1980年6月16日	金沢市湯涌	1ex	金沢大学理学部

下小屋でカラスシジミを採卵

松 井 正 人

富山県ではあるが、金沢に近い小矢部川上流の福光町下小屋地内でカラスシジミを採卵したので報告する。

小矢部川に沿って下小屋から同村ブナオ峠に至る道路はすべて舗装されている。ここを走りながら、標高650mから800m位にかけて３個所にオヒョウを発見した。この３個所で５本のオヒョウを調査し、どの場所からもフ化殻を発見した。また最も標高の高い場所からは生卵１卵も発見した。これらオヒョウはどれも上というよりはむしろ横に伸び、谷川に覆い被さるようになっていた。

下小屋からひとつ尾根を越せば金沢の倉谷川で、ここの環境も良く、付近でオヒョウも見つかっていることから、近々金沢市でもカラスシジミが見つかると思われる。

1986年11月８日　４フ化殻１生卵　富山県福光町下小屋　　松井正人

ホシチャバネセセリを採幼(その２)

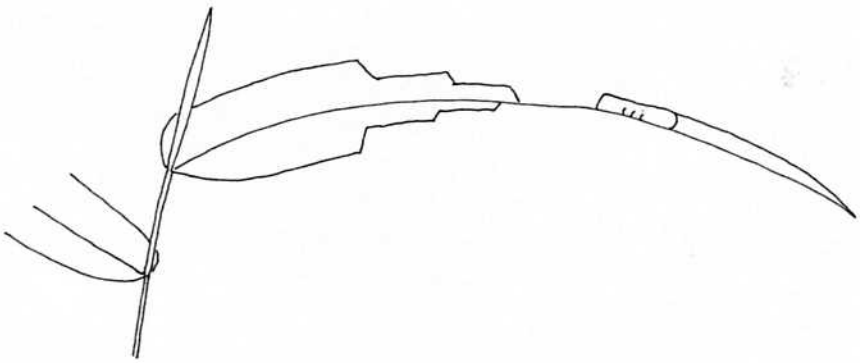
松 井 正 人

石川県内でホシチャバネセセリは２化するが、この度小松市でその２回目の幼虫を採集したので報告する。

採集した幼虫は、８mm位の頭部が黒い幼虫８exsと、12mm位の頭部が緑色をした、いかにもホシチャバネといった幼虫２exsである，これらは花穂のないミヤマアブラススキの先端近くの葉(開いている一番上の葉)で、１例が葉表を外側にして、残り９例は葉裏を外側にして造巣していた，また頭部が緑色の幼虫１exは、２段目の葉に造巣していたが、頂上付近には放棄されたらしい巣が１つあった。

飼育の結果これらは、８月21日より羽化を始め、９月４日に最終個体が羽化た。

1986年８月２日	小松市東山	８exs	松井正人
1986年８月２日	小松市遊泉寺温泉	２exs	松井正人



石川県のカミキリムシ科（その5）

井 村 正 行

89.トワダムモンメダカカミキリ Stenhomalus lighti GRESSITT

平地からブナ帯まで広く分布する，5月にビーティング等で採集されるが、野外での成虫の採集例は少なく、もっぱらキブシの材より羽化させるものが多い。キブシの枯材からは大変多くの本種が羽化する。越冬態は新成虫が圧倒的に多いが、終齢と思われる幼虫も混じる。

1985年5月5日	2♂2♀(材内成虫)	金沢市砂子坂	井村正行
1986年4月29日	多数(材内成虫)	金沢市倉ケ岳	井村正行

90.タカオメダカカミキリ Stenhomalus takaosanus OHBAYASHI

白山山麓のブナ帯で、カエデ、ミズキ、ゴトウズルの花より採集される。5月下旬から7月上旬にかけて見られ、個体数も少なくない。

1979年5月20日	1♂1♀	白山釈迦林道	井村正行
1980年5月25日	3♂2♀	白山釈迦林道	井村正行

91.タイワンメダカカミキリ Stenhomalus taiwanus MATSUSHITA

平地から低山帯に分布，カラスザンショウの枯枝に集り幼虫はこれを食す。本種は越冬態を新成虫で越すものと、中齢、終齢で越すものと2系統あるように思われる。それらを飼育すると前者は4月から5月に材外に出るのに対し、後者は6月から7月に羽化脱出する。その為か場所によってパターンがバッチリ分かれているように思える。

1981年6月30日	1♂(羽化)	金沢市倉ケ岳	井村正行
1984年6月15日	1♀	金沢市俵	井村正行

92.カッコウメダカカミキリ Stenhomalus cleroides BATES

平地から低山帯に分布。アケビ及びムベ(栽培品)の枯枝の材採集より本種の成虫や幼虫が採集され、材以外では飛翔中のものが松井正人氏によって採集されている。越冬態は新成虫が5％程度で、大半は中齢から終齢である。新成虫は10月頃すでに羽化して材内にいる。

1978年7月6日	1ex(材内成虫)	加賀市保賀	松井正人
1983年10月3日	1♂	松任市幸明	井村正行

93.ナカネアメイロカミキリ Obrium nakanei OHBAYASHI

白山のブナ帯に分布し、センノキの幹に止まっているものや、その回りを飛翔しているものが採集されている。6月下旬から7月にかけて見られ、センノキの大木があれば、注意深く探すと個体数も少なくない。またその幹には、飛孔と思われる穴が数多く見られる。

1982年7月4日	4♂2♀	白山釈迦林道	井村正行

94.サドチビアメイロカミキリ Obrium japonicum PIC
95.オダヒゲナガコバネカミキリ Molorchus gracilis HAYASHI
96.カエデノヒゲナガコバネカミキリ Molorchus ishiharai OHBAYASHI
いずれも採集例があるようだが筆者は確認していない。

97.コジマヒゲナガコバネカミキリ Molorchus kojimai MATSUSHITA
低山帯からブナ帯まで広く分布し、５月から７月上旬まで見られ、カエデ、ミズキ、サワフタギ等の花より採集される。個体数は比較的少ない。本県での越冬態は終齢または蛹のようで、キブシの枯材より採集されている。またミズキの枯枝に産卵中の♀も観察している。

1980年５月25日	1♂	白山釈迦林道	井村正行
1981年４月20日	1♀	金沢市倉ケ岳	井村正行

98.トラフホソバネカミキリ Thranius variegatus BATES
本種は白山三谷において１採集例を聞くが、筆者は記録を確認出来なかった。

100.クスベニカミキリ Pyrestes haematicus PASCOE
平地から山地帯まで広く分布し、６月から７月に飛翔中のものや、リョウブ、クリ等の花に飛来したものが採集されている。本県で確認した生態は、幼虫がクロモジやタブの太さ20mmから25mm位の生枝を食害し、終齢近くなると(10月頃)枝の上下を切り落としてしまい、長さ50mm位にして地上に落下し、そのまま春に蛹から成虫に成るようだ。

1971年７月28日	2♂1♀	金沢市別所	松井正人
1985年５月20日	1♂(羽化)	金沢市俵	井村正行

101.ルリボシカミキリ Rosalia batesi HAROLD
白山ブナ帯に分布し、７月から８月頃に各種広葉樹の伐採木に集まる。他県では多い本種も本県では比較的少ない。

1979年８月12日	1♂	白山三谷	野中　勝
1986年８月	1♂	白山目附谷	松井正人

102.ミドリカミキリ Chloridolum viride THOMSON
平地からブナ帯上部まで広く分布し、５月から８月上旬まで各種花や広葉樹の伐採木等で採集される。個体数も少なくなく、特に平地から低山帯のコデマリの花等には多数の本種を見ることがある。

1970年６月21日	1♂	金沢市大桑	松井正人
1985年６月９日	1♀	金沢市俵	井村正行

103.オオアオカミキリ Chloridolum thaliodes BATES

白山のブナ帯に分布し、７月から９月にシシウド等の花や各種広葉樹の新しい伐採木に集まる。本種は特に日没近くに伐採木等に良く飛来し、材上を活発に動き回る。サワグルミの材を大変好み、産卵行動等も見られる。

1978年８月27日	1♂1♀	白山三谷	橋場　清
1981年８月23日	1♂1♀	白山大杉谷林道	井村正行

104.アオカミキリ Schwarzerium quadricolle BATES

平地からブナ帯まで広く分布し、６月から８月上旬まで各種花より採集される。食害されているカエデ類は多く見られるが、成虫の個体数は多くない。幼虫はカエデ類の生木を食害し、それらの枝先を切り落とす，それは時に70mm位の太さのものまで落とすことがある，越冬態は中齢から前蛹まで幅があり、成虫に至るまでは２年以上かかるものと思われる。蛹室は出口の方を石灰質でふたをする。

1979年６月15日	1♂(羽化)	金沢市俵	井村正行
1985年５月６日	1♂(羽化)	金沢市浅丘	松井正人

105.ヒメスギカミキリ Callidiellum rufipenne MOTSCHULSKY

平地からブナ帯まで広く分布し、４月から７月までスギの伐採木や衰弱木等に集まる。個体数は大変多い。本種は♂♀とも色彩変位が多く、♀では全体が赤いものや、♂では赤、青、緑色と上翅に変化がある。越冬態は終齢から成虫まで見られる，ホストはスギの他ネズミサシにも本種の食害が見られる。

1969年５月４日	1♂1♀	金沢市大桑	松井正人
1986年４月29日	多数	金沢市小池	井村正行

106.スギカミキリ Semanotus japonicus LACORDAIRE

平地から山地帯まで広く分布し、４月から６月にスギの生木または衰弱木等に見られる。県内のスギ植林地で直径20cmを越える林は、多かれ少なかれ本種の食害が見られる，特に本種は根ぎわから１m位の場所に好んで加害しているように思われる。この種も基本色から黒一色まで変化に富む。

1979年２月12日	多数(新成虫)	金沢市平栗	井村正行
1979年４月24日	3♂2♀	金沢市坪野	井村正行

107.ビャクシンカミキリ Semanotus bifasciatus MOTSCHULSKY

本種は秋田県から本県に入ってきたアスナロの木に入っていたもので、本種が本県に分布し定着しているかは疑問である。

1981年6月５日	1ex	金沢市鳴和	井村正行

ヒロコの日記から

松井泰子

★月☆日

翔太郎(長男1.5歳) がいつもになくおとなしいのでどうした事かとそばへ行くと、庭で見つけたゴマダラカミキリと遊んでいた。が良く見ると、カミキリには頭が無かった。そして翔太郎の顔を見ると、口元からズルっと長い触角が…。

■月◆日

ムシバカセは最近夜になると必ず何処かへ出かける。いったい何処へ何をしに行くのだろうか。今日もウキウキして出ていったが、帰宅したのは夜中1時すぎだった。持って帰ったタッパーには、カミキリの頭が1つしらじらしく入っていた。白峰で拾ったと言っているが、多分それは口○町の電燈の下に落ちていたに違いない。私の目はごまかせない。ムシバカセの顔を見ると、しっかり「やましい」と書いてあった。

《妻の目ほどいいかげんなものはない－編集者より－》

▲月▼日

今日玄関にナイロン袋が落ちていたのを母が拾って、「これなあに？」中には何やら柔らかいものが入っている。良く見ると、な、なんと、オオセンチコガネのお食事だった！　ムシバカセがトラップ用にと、使っていない犬小屋に隠していたものだろう。好奇心旺盛な翔太郎が持ち出したらしい。あわてて犬小屋まで戻しにいったが、中を見ると同じ袋がまだ山のように積まれていた。朝からカレーを煮込んでいたが、私は夕食をお茶漬けですませた。

日頃虫を眺めていて思いめぐらす事

小幡英典

現在の翔の原稿不足は目を覆う惨状にあるらしい。普通種の撮影しかしていない当方にまで「気のついた事でいいから,」と原稿依頼がやってくるのですから、余程ひどいに違いありません。かくして翔の品位降格を危惧しながら、私の想像の蝶を記します。

ここ数年、スジグロチョウを飼育(こう書くのはいかにもおこがましい)していますが、家人のひんしゅくを買うこともあって、プランターに食草を植え庭で育てています。これがフタモンアシナガバチに見つけられると、「あっ」という間に全滅させられてしまいます。コマユバチによる寄生も、一度始まるとかなりの高率に達します。この2種の天敵に対してスジグロ幼が何ら防御の手段を持っていないというのは、呆れるばかりです。

スジグロが変貌をとげるとすれば、この部分だろうと考えます。

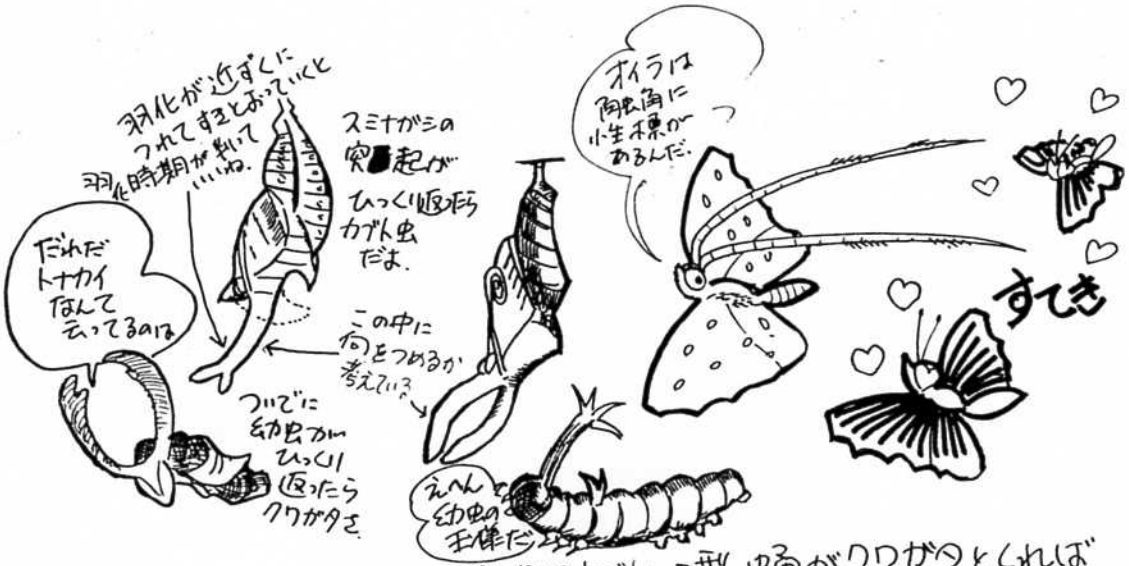
喰いつかれるとネバネバした体液で鳥餅と化す。
これでスジグロ幼虫も一諸に死んで天敵を道連れにすると、社会性昆虫のようでカッコイイ

こうなると増えすぎるだろうね。そうしたら食草のレパートリーを広げる方向に進化すればいい
そのうち食草ごとに分化して別の種になるというのも面白い。
当然天敵側でも進化して寄生蜂は体にふれずに卵を産み、ハチの幼虫が自ら、スジグロの体の中に入るようになるかも知れない。

by Eiten

タテハ蝶の幼虫に適応が進んでいないといわれるのは、主にその色彩や形態を指していると思いますが、私が目にした幼虫達は習性面でカバーしているように思います。アカタテハは葉を綴る事で、ミドリヒョウモンは食草に留まる時間を少なくする事で、ルリタテハやキタテハはゾウムシのように、気配を感じると落下する事でしのいでいるように思います。ちなみに緑色のスジグロ、アゲハ、ヤマトシジミ幼は揺すったぐらいでは落ちません。ルリタテハやキタテハ幼は、その突起がイラガの幼虫のような毒針毛を連想させて、鳥に対して効果があるともいわれていますが、そのために生えてきたものではなく、もともと生えていたものがそのように変化したのだろうと想像します。生物に無駄が無いといわれていますが、それは淘汰圧がかかった結果で、生存に影響を及ぼさない範囲で、いや少し位なら影響を及ぼしても親と同じだけの数の子供が生き残れる大らかな環境なら、形や色にはかなり自由度があると思います。南米のツノゼミの様々な飾り角の生えた写真を見ると、せちがらい世の中に耐え切れず絶滅した数えきれない種類の蝶の中に、我々の発想を３段跳びこしてしまった、色彩や形態の蛹や幼虫がいたに違いないと信じずにはいられません。

想像力の貧困から感性に訴えるものは思い浮かびませんが、遊び心で考えてみました。



幼虫がカブトムシ型、蛹がクワガタとくれば成虫は金属光沢の長い触角のカミキリ型がよいね。模様は、ゴマダラかルリボシカミキリ、パターンがシックでgood!! 雌は地味でオスの触角に誘引されるとすれば性淘汰の結果より長くなる方向に進化しても、おかしくないでしょ。

頭から尾へ虹のパターン
アオバセセリの仲間にいてもよさそう。

by Eiten

成虫にも幼虫にもクロスがあるとすごい。

十字架にはりつけにされたように、見える蛹、
ジャコウアゲハの近縁というと本当っぽい

これが長崎あたりに生息していて江戸時代かくれキリシタンが秘かに、飼育、拝んでいるとおもしろい。対する幕府が歴教から、殺生令を出していたりすると、中学の歴史でエピソードとして取り上げられているにちがいない。

ウマノスズクサを食草にして、鳥が食べないと、さらに幕府の神経を逆なでするだろう。

和名は、アマクサシロウアゲハor かくれキリシタンアゲハ、学名はByasa yeses OBATA だったりして

これが日本特産種なら、外国のコレクターといい物と交換できるでしょう。

(注) 全て、フィクションです。

本来、冷静な観察眼による記録の集積が目的の会誌に、このようなそぐわない内容で、良識ある会員諸兄の憤慨が目に浮かびます。そう感じた方には、是非多数投稿していただき、当方に原稿依頼が来ないようにしましょう。私からもお願いします。

宝達山にてアサギマダラ多数を目撃

松 井 正 人

1986年９月21日、井村正行氏、中西重雄氏等と共に押水町宝達山のピークにて、アサギマダラ多数を目撃した。アサギマダラはピーク北東斜面のブナ林、及びピーク南斜面の雑木林の中で、あてもなくフワフワと飛んでいた。捕獲も容易で20頭程ネットしたが、新鮮なものが多く、大半が雄で雌は３頭だけだった。この付近で食草らしきものを探してみたが、それらしいものは発見できなかった。これらのアサギマダラは移動中の個体群のようで、９月23日に再び同地を訪れた時には、１頭も発見できなかった。

また９月23日に同地で捕獲したアサギマダラ９♂については、マークして放蝶した。油性マジックで右前翅に「ヒ-１」から「ヒ-９」までを記入し、９月23日から25日にかけて、金沢市大場町の自宅で行った。

Self introduction

菊 池 雅 之

自宅　〒952-04　佐渡郡真野町田切須130　TEL　02595-8-2521
昭和１９年生まれ　教　員

佐渡島でのギフチョウ、ヒメギフチョウの存在を信じて、長年調査をしたいと考えています。昆虫歴は小学校２年生頃から、兄に連れられ虫を追ったのが始まりで、主として蝶を中心に高校３年までやっていましたが、大学に入り教職に就いてからはしばらく調査を休んでました。長男が昨年(60年４月)小学校に入学して、夏休み中の課題に昆虫採集をしたいというので、手伝いがてらにまた始めたといった状態です。越佐昆虫同好会、山形昆虫同好会、富山昆虫同好会、石川むしの会に入会し、誘蛾燈にも入会しました。

他県の、しかも佐渡島といった異物が入会するのはどうかとも思いましたが、各地の様子を知り、自分の為になることであれば、「どうせ昆虫をやるのなら…」との浅はかな考えも手伝って入会致しました。

小生まもなく42歳に成りますが「昆虫については全然判らぬ」の一言ですので、ぜひ御教示も下されたく、宜しくお願い致します。

ウラナミアカシジミの蛹に透ける玉の正体は？

松　井　正　人

ウラナミアカシジミの蛹の色は薄く、うっすらと蛹の中が透けて見える。この蛹を見ていると、おなかの真ん中辺りに白っぽい玉があるものと、無いものがあるのに気が付いた。最初この玉付の蛹は寄生されているのかと思っていたが、これらは総て羽化したので、そうでは無かった。

今年再び本種を飼育した所、やっぱり玉付と玉無の蛹があり、一体何者かと思案していたところ、同じく本種を飼育しこの玉に気付いた嵯峨井淳郎氏は、「これはきっと卵巣で、蛹の時分からすでに発達しているに違いない」とのたまった。なるほどと思ったものの、一応手許にあった21蛹を嵯峨井式に分けて羽化を待ったところ、玉の有無によって雌雄は完全に分かれたが、なんと玉付は雄だった。この事を嵯峨井氏に告げると、氏も同じ結果を得たとの事だった。それでは一体この玉の正体は何であろうか？　まさか雄だから玉がある訳でも無かろうが、誰かこの玉の正体調べてくれないかなあ。

白山薬師山でベニヒカゲとゴマシジミを目撃

松　井　正　人

白山(2,702m)から北方へ伸びる１つの尾根は、薬師山(2,023m)までは徐々に高度を下げ、ここを境に一気に高度を下げる。この薬師山へはこれまで何度となく足を運んでいるが、ベニヒカゲは目撃したことが無く棲息しないものと思い込んでいた。ところが今回ピーク付近のササ原で目撃することが出来た。また同時に、中の川より吹き上げられたと思われるかなり飛び古したゴマシジミも目撃した。

しかし今回もまた、すぐ近くの小桜平(2,000m)ではベニヒカゲを目撃することは出来なかった。

1986年８月17日　白山薬師山ピーク付近ササ原　　松 井 正 人
ベニヒカゲ　7exs、ゴマシジミ(大破)　1ex

ヤコンオサムシの一採集例について

井　村　正　行

松任市若宮神社境内　　1986年５月24日　１♀　　井村正行

石川県では平野部で局所的に採集されているが、採集された場所が住宅地と水田に囲まれた狭い神社の森であった。

昨年も本種を上記の場所で目撃していることから、本種がこの狭い範囲で世代を繰り返している様に思われる。

会員の動き・しゃばの動き

★９月20日竹谷氏、５泊６日の予定で台湾へ。県農業試験場の虫キチ10人と、蝶を主体に昆虫全般の採集あるいは撮影。蝶はたくさん飛んでいたが、やっぱり氏はスライドしか撮らなかったらしい。

★９月23日越虫の山口氏、インセクトフェアにジャコウアゲハ、ギフ、オオヒカゲ等の出店を出していたが、最後にはどうにか売りさばいていた。

★東北の横山氏、佐渡遠征を控えてハンディータイプのツルハシを購入し、現在盛んに試し掘りをしている。

★９月28日松田氏、白山釈迦林道へフジミドリの採卵。車は市の瀬で通行止の為、採卵場所までは徒歩に頼る。途中キベリタテハ１exを目撃したものの、アサギマダラはさっぱり。それでもってフジはたったの４卵。ゼフはやっぱり不作なのかな。

★カブトムシの飼育面積を知っているだろうか。三重県のある業者は、年越ししたもので、坪当り600匹を養殖している。となれば１匹当り55㎠となるが、惜しいことに深さについては聞き漏らしてしまった。

★10月５日井村、中西、松井の３氏、９個のバクダンを抱え、前日から夜駆けして京都へ。当日分を含め12個のトラップをセットし、15exsのミドリセンチを採ってきた。

★飼育容器はこれが一番！スズコ等が入っている薄質透明プラスチックの丸カップがそれで、中央市場の魚商業協同組合で売っている。100個単位で、大1260円、中710円、小585円。

★10月19日再び前記の３氏、悪天候の中あいも変らず昆虫採集。岐阜県荘川村では雪に降られながらも、カツラからツヤハダクワガタの成虫、幼虫を掘り出し、白川村のチップ工場では、雨の中ミズナラのウロよりオオチャイロハナを掘り出した。

★10月18日19日吉岡、吉村グループ、仕事の合間を縫って和歌山県日ノ岬までクロコノマを採りに出かけた。太陽が好ましくないこの蝶は、陽がサンサンと降り注ぐ10月はなかなか採れないようで、はらいせにツマグロヒョウモンをガッポリ採ってきた。

★10月21日中西氏、白山釈迦林道へ。朝から朽木をバッチンバッチンやっていたにもかかわらずヒラタムシしか採れないので、石起こしに転向。大きな岩をガバっと起こすと、ポッカリ空いた穴にはホソヒメクロオサが六肢を曲げ鎮座していたとか。越冬個体の発見は県内初。

★11月３日澤田氏、ポカポカ陽気に誘われてのんびり散歩していると、石引通りでのんびり飛んでいるアサギマダラに出合ったらしい。

★11月５日米沢の横山氏、佐渡オサ掘りツアーの打合せに来沢。フェリーは車よりバイクが安い…等と中西邸にて夜遅くまで続けられた。

★11月８日９日中西、横山のツルハシコンビ、サドマイマイを求めて佐渡狭しと250ccバイクで走り回る。朽木からはビカビカムラサキのサドマイマイが、崖を崩せばサドクロがそれこそ山程出てきたらしい。

★11月８日松井氏、ヒサマツ調査で福光町の刀利ダムへ。ダム直下にはウラジロガシが有るはずだったが、あてが外れたもよう。ところが断崖にシモツケを発見し、「ホシミスジ、はたまたナマリの生息は」などと１人ほくそ笑んでいる。

★岐阜昆同の宮野氏、庄川水系のヒサマツを狙って富山県庄川町まで調査に来ている。今のところ発見されていないが、氏の手にかかれば発見も時間の問題かと思われる。蝶談会諸君、おしりがムズムズしないかね。庄川町は、氏の住む各務原より金沢の方がぐんと近いんだよ。

★城南亭の主こと井沢氏、またぞろ東南アジアの風に吹かれたらしく、年内中にはお店をたたんでしまうらしい。

★信頼できる消息筋によると、近々嵯峨井邸にパソコンが入るらしい。ＮＥＣの9801VM2という機種で、ワープロとしても活用できるらしい。これで編集人の荷も軽くなると考えるのは楽観的だろうか。

★11月16日田中先生、エノキの分布もほとんど把握し、オオムラサキの分布調査に意欲を燃やしている。ところでオオムラサキはいったい、いつ木を降りるのか。現在この疑問を解くために、時間、時期、ゴマダラとのズレを観察している。双眼鏡で眺めると緑色の幼虫がまだハッパに付いているらしい。

★11月23日から26日まで井村氏、東京へ出稼ぎ。仕事は３日程で終わらせ、伊豆でトガリバホソコバネの材でも拾ってくるらしい。

★今回ワープロのランクをどうしても落とさなければなりませんでした。結果ごらんのように活字が見にくくなり、印刷形態も変わってしまいましたが、当分はこのままでいきます。

例会の記録

10月３日(金)城南管工２Ｆにて８時より開催。10月会合はスライド大会ということで、今回は第１回。上映者は初回の為か３名と少なく、上映順に松井（今年の飼育から)、山本(タイ、チェンマイ、カニトラップ)、竹谷(台湾撮影行1986年)。

大会後の話題では、インセクトフェアは人だらけで虫を眺めるヒマが無かった(井沢)、燈火採集にムラサキシタバは全然来ない(山本)、キョクトウトラはハイマツで採れてる(横山)、このビカビカのオオセンチはどうだ(中西)、台湾では誰もが蝶を採り狂う(竹谷)、今年中に外国へ採集に行くぞ(山岸)、明日はミドリセンチだ(井村)、ウマノスズクサの苗いりませんか(近藤)、イワワキ事件その後等、種々雑多な話が入り乱れ、そのうちにまたまた…カブトや、…クワガタも乱れ飛んだが、売れ行きは今イチのようだった。

参加者は、井沢、井村、近藤、嵯峨井、竹谷、中西、松井、山岸、山本、横山の10氏。

と　ぶ NO.60 1986年12月５日発行
編　集 松 井 正 人
発　行 百万石蝶談会
事務局 金沢市大場町東871の15
松 井 方
〒920-01 ☎0762-58-2727